

ゾルゲ事件と伊藤律——歴史としての占領期共産党（覚え書き）

一橋大学名誉教授・早稲田大学客員教授（政治学） 加藤哲郎

【はじめに】

以下は、2016年7月16日に明治大学リバティタワー12F1125教室で行われた『父・伊藤律 ある家族の「戦後」』（伊藤淳著・講談社）出版記念シンポジウムでの加藤の報告「ゾルゲ事件と伊藤律—歴史としての占領期共産党」の、報告そのものではなく、報告のためのレジメと資料・パワーポイント画像を組み合わせたメモ風覚え書きである。

シンポジウム終了直後に日露歴史研究センター白井久也代表より論文寄稿の依頼があったが、今回の主題については準備期間がほとんどなく、未完成なものだったので、すでに「ちきゅう座」HPに公表された当日配布レジメをもとに、質疑応答を踏まえた最小限の訂正と各章「まとめ」の加筆にとどめた。

主題については、伊藤淳氏の要請により、11月20日（日）に岐阜県瑞浪市で、改めて講演の予定である。なお、シンポジウム当日は、『ニューズウィーク』誌前モスクワ支局長オーウェン・マシューズ氏（『スターリンの子供たち』白水社、2011年の著者）がロシアから訪れ出席し、現在準備中のゾルゲの伝記執筆のために、渡部富哉氏ら日露歴史研究センターのメンバーと研究交流した。（加藤哲郎）

1 「ゾルゲ事件発覚伊藤律端緒説」の崩壊、「GHQスパイ説」は？

チャルマーズ・ジョンソンと渡部富哉『偽りの烙印』の功績

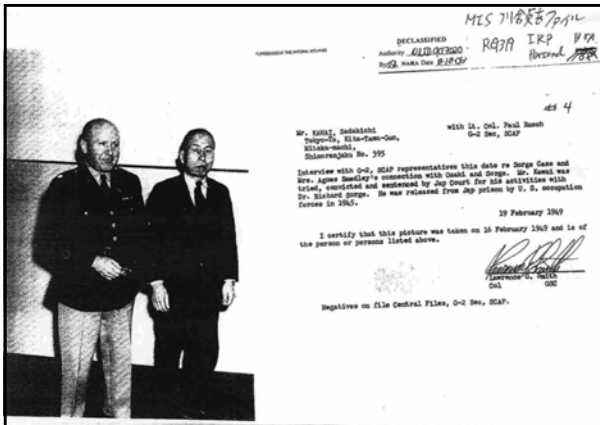
日本共産党「6全協」伊藤律除名決議(1953/55) における伊藤律の二つの「罪状」=①伊藤律供述がと川合貞吉証言をもとにした、尾崎秀樹『生きてい ズルゲ事件発覚のきっかけ、②戦後は GHQ のスパイ。(1959), 松本清張『革命を売る男』(1960) イ。

<その1「ゾルゲ事件発覚伊藤律端緒説」の崩壊>



- 渡部富哉『偽りの烙印』（1993）の功績=警察・検察・司法資料の徹底した実証的批判的解読による通説の崩壊
- 加藤『ゾルゲ事件』（2014）による補足=川合貞吉と G2 ウィロビー、CIS ポール・ラッシュウの関係、以下の小見出しで論じ、川合による G2 への伊藤律失脚工作のための謀略情報提供、川合の G2 スパイ化を解読。
 - ① 上海でのゾルゲ、尾崎、ス McDレーとの会談を証言した川合貞吉
 - ② 特高警察 1942.2 内部文書に始まり 49.2.10 ウィロビー報告に入った伊藤律発覚端緒説
 - ③ 伊藤律が27年間の幽閉から「奇蹟の生還」をしても、清張により広められた汚名は続く

- ④ 通説を覆した渡部富哉の執念の研究『偽りの烙印』(1993)
- ⑤ 1949/2、陸軍省ウィロビー報告直後のポール・ラッシュによる川合貞吉訊問
- ⑥ 民間情報局 CIS の川合貞吉調査・監視は 49/2 陸軍省発表以前から
- ⑦ 上海 1931 年 秋スメドレー・ゾルゲ・尾崎会談の「生き証人」?
- ⑧ 川合貞吉からは得られなかった米国共産党上海「鬼頭銀一」情報
- ⑨ 伊藤律を用いた日本共産党攪乱の情報は、川合貞吉による G2 への売り込み
- ⑩ ウィロビーとキャノン機関に囲われた「革命を売る男」川合貞吉
- ⑪ キャノン機関の本郷ハウスでゾルゲ事件と共産党攪乱情報を提供
- ⑫ 1949/2 から月 2 万円で米軍スパイとなり、50/3 から 1 万円に減額された川合貞吉
- ⑬ ウィロビーにより総額 43 万円で買われた川合貞吉
- ⑭ 川合貞吉を信じ続けた尾崎秀樹、松本清張



【加藤の結論】 これらすべてを隠匿した川合貞吉は、戦前特高警察へのゾルゲ事件供述と戦後米軍 G2 への供述証言が事実であったことを繰り返したためか、自伝『ある革命家の回想』(日本出版協同 1953)を幾度か改版し(新人物往来社 73、谷沢書房 83、徳間文庫 87)、『ゾルゲ事件獄中記』(新人物往来社 75)、『遙かなる青年の日々に一私の半生記』(谷沢書房 79)などで「青春の夢」を説き続けた。

すでに伊藤律が生還した後であったが、文芸評論家としての地位を確立していた尾崎秀樹は、米軍諜報員

川合貞吉から受け継いだ「伊藤律＝生きているユダ」説、「ゾルゲ事件伊藤律供述発覚端緒」説を、自己のレーゾン・デートル(存在根拠)として固守し続けた。

いや、尾崎秀樹だけではない。伊藤律を戦前ばかりでなく戦後も「スパイ」として中国の監獄に放置した日本共産党は、宮本顕治・野坂参三の新体制のもとで、「50年問題」「北京機関」そのものを「党分裂」の一方の当事者である徳田派＝所感派の責任に帰し、戦前ゾルゲ事件も戦後の伊藤律への冤罪による異国での幽閉も「関係がない」という立場をとり続けた。

そして、こうした日本共産党の主張を鵜呑みにし、戦前・戦後を通じた「革命を売る男・伊藤律」のイメージを広め、ノンフィクションとして歴史に残したのが、松本清張『日本の黒い霧』だった。



ゾルゲ事件の伊藤律発覚端緒説は、渡部富哉の執念の調査と、以上に詳述した米陸軍情報部「川合貞吉ファイル」、それにもともとウィロビー報告に疑問を持っていたチャルマーズ・ジョンソン『ゾルゲ事件とは何か』(原書 1964、増補新版 90、邦訳岩波現代文庫 2013)などの学術研究によって、特高警察の作為であり、GHQ・G2 がそれを利用したものであることが明らかになった。伊藤律は、日本共産党という閉鎖的組織の路線論争・党内抗争のいわば生け贄であり、戦前ソ連でのスターリン粛清や戦後中国での文化大革命で大量に作られた犠牲者と同質の政治的な冤罪犠牲者の一人であった。

- 文藝春秋社による松本清張『日本の黒い霧』文庫版断り「作品について」(2013/1 第16刷)
- 伊藤律自身の生前の著作・遺言→伊藤淳『父・伊藤律 ある家族の「戦後」』出版(2016)

<その2 伊藤律はGHQのスパイだったのか?>

- **加藤『日本の社会主義』**(2013)=徳田・野坂の第3次共産党の核・原発政策と、そのソ中・英米との関係(1901年社会民主党以来の広義の社会主義史の中で、日本共産党は大きな攪乱要因だった。路線・政策的には、堺利彦・荒畑寒村・山川均の第1次共産党から、現在の不破哲三・志位和夫の第5次共産党まで指導と路線の変貌、一貫したのは組織論=民主集中制くらい)

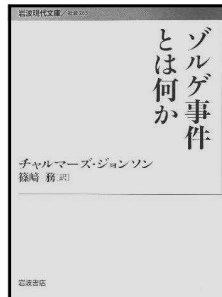
- **チャルマーズ・ジョンソン『ゾルゲ事件とは何か』**(1964、増補版1990・新訳2013 加藤解説)

渡部『偽りの烙印』より早い1964年初版で「付章 伊藤律はユダだったろうか」



の疑問を提示、初版1966年萩原訳の欠陥(注・典拠の省略)、伊藤律の「奇跡の帰還」を知り1990年増補版

① ジョンソンは、丸山真男『スターリン批判』の批判1956/11の伊藤律への言及に着目(「ベリヤや伊藤律のような『裏切り者』』についての公式発表には、殆どハンコで押したように、彼らがそもそもの出発点から邪悪な素質と意図をもって運動に入り、組織の中で着々その目的を実現して遂に党や国家の最高幹部にのし上がったというような遡及論的な論理が使用される」(丸山「戦争責任論の盲点」1956/3の共産党批判→『現代政治の思想と行動』1964,p.321 =本質顕現主義・基底体制還元主義、先天的内在的なものの顕在化という政治の論理)



② ウィロビーの「川合貞吉=日本版ウィテカー・チェンバース」評への着目(ジョンソンはアメリカにおけるマッカーシズム衰退後の東アジア共産主義研究者)→典拠は、参謀二部 G2 ウィロビーから民

政局 GS ホイットニーへの GHQ 内連絡文書(資料1) = 1949年8月)

【この章のまとめ】 伊藤律を日本共産党が除名し、尾崎秀樹や松本清張が「生きているユダ」「革命を売る男」として広めてきた「裏切り者」「権力のスパイ」のイメージには、第一に、1949年2月ウィロビー報告に「unwitting Judas (意図せざる、うっかりミスユダ)」として出てきた、もともと特高警察により意図的に作られた情報をもとに、伊藤律をゾルゲ事件発覚の端緒を作ったとする川合貞吉証言・尾崎秀樹説と、それを利用した GHQ/G2 チャールズ・ウィロビー、CIS ポール・ラッシュ等の謀略が、色濃く投影されていた。第二に、日本共産党や松本清張によれば、戦後日本共産党の書記局員・政治局員・農民部長であった伊藤律は GHQ との連絡等で米国軍と接触する機会があったが、それが「スパイ」として共産党を攪乱し分裂させるための活動だったという。

第一の「伊藤律ゾルゲ事件発覚端緒」説は、渡部富哉『偽りの烙印』の執念の探求で、ようやく一般にも認められるようになったが、第二の「GHQ ウィロビーのスパイ」説については、本格的な検証が行われていない。手がかりになるのは、1964年という早い時期に「伊藤律はユダだったのか？」とウィロビー報告に疑問を呈していた、米国チャルマーズ・ジョンソンのゾルゲ事件研究である。彼がそこで参照した、1956年丸山真男による、共産党6全協における伊藤律除名処分への批判の視角=「彼らがそもそもの出発点から邪悪な素質と意図をもって運動に入り、組織の中で着々その目的を実現して遂に党や国家の最高幹部にのし上がったというような遡及論的な論理」、及び、ジョンソンが GHQ・GS (民政局) 資料に見出したウィロビーの「川合貞吉は日本のウィテカー・チェンバースである」というコメントを手がかりに、「伊藤律=占領軍スパイ」説を検討するのが、本報告の目的である。

2 ソ連・中国共産党、GHQと日本共産党

——伊藤律「三重スパイ野坂参三」(文春1994/1)の意味



ソ連の対アジア戦略と日本共産党、JCP のソ中
共産党・在日ソ連代表部/GHQ 接触についての重要な3つの研究を紹介する。和田、下斗米は主としてソ連側資料から、柴山は英米軍の諜報文書からで、加藤報告は、米軍・GHQ 資料から独自に検討する。

● 和田春樹『歴史としての野坂参三』(1996)

旧ソ連秘密文書から見た JCP、GHQ 支配下での自主的平和革命論、野坂・徳田・伊藤のGHQ/ソ連代表部接触、1947.3.28 野坂・伊藤のタス通信東京支局長サモイロフとの会談で伊藤はCICの2世スパイ要員養成を報告、英文週間報告提出、49.4 団規法に従う、コミンフォルム批判は野坂への死刑宣告、北京機関での伊藤律幽閉は野坂の責任。

● 下斗米仲夫『アジア冷戦史』(2004)、『日本冷戦史』(2011)

ソ・中、英・米のアジア冷戦戦略と JCP (地政学・核・イデオロギー)、モロトフ文書・英国公文書館資料中の日本認識、1947/11 東方(極東)コミンフォルム構想と JCP 担当者伊藤律・徳田の慎重論、1949 年秋の転換、50 年コミンフォルム批判の作成経緯と朝鮮戦争の意味、講和と JCP51 年綱領、日ソ交渉と JCP 六全協の相関。

● 柴山太『日本再軍備への道』(2010)

国際関係史の高価で浩瀚な研究書だが、米国側の得た占領期共産党についての内部情報を広

範に使用、極東コミンフォルム等ソ連側文書で確認できないものについてはその旨註記して良心的、1947.12.17 の G2 レポートは、中央委員会秘密会議における、ソ連が提唱した極東コミンフォルムについて、代表派遣を主張する野坂派と、派遣反対の徳田(伊藤)派の対立を議事録で報告、当時の共産党中枢内に GHQ への情報提供者がいたことを示唆している。

● 加藤の米国立公文書館NARA, 日本帝国戦犯機密解除文書の2000-16資料探索から

(アメリカ占領軍 GHQ[GSvsG2]と共産党利用・監視・摘発・追放・謀略文書から)

① 1944.7 米国ディキシシー・ミッション。山本武

利編『延安レポート』(2006)における岡野進=野坂の日本兵捕虜思想工作、野坂天皇制論の評価(バックにOSS ジョー小出=鶴飼宣道)



② 1945.2 米國務省ジョン・エマーソンらの国際自由日本人連合案(資料2)

= 山極晃『米戦時情報局の延安報告と日本人民解放連盟』

(2005) 大山郁夫・河上清・石垣榮太郎・綾子夫妻・藤井周而・野坂・鹿地らによる亡命日本政府構想(國務省文書、首班に擬された大山の拒否で



挫折、捕虜尋問は有効)

- ③ 1945.7.12 重慶 OSS での鹿地亘の米国政府 Government of USA への忠誠誓約・エージェント契約 (資料3)、OSS 文書＝日本敗戦後鹿地は契約解除と認識、米国にとって占領は戦争の延長で講和まで有効、1951-52G2 キヤノン機関幽閉、鹿地・三橋事件、CIA 活動発覚)
- ④ 野坂の 1946 帰国時モスクワでの戦後日本民主化に役立つ人材案(45.11) = a 米国共産党ジョー小出、カール米田、藤井周而、石垣夫妻、b 日本の徳田・志賀、c 延安の森・梅田・山田＋延安朝鮮人主義者、の順序 (和田『歴史としての野坂参三』 p.145, 『アメリカ共産党とコミンテルン』野坂関係文書)
- ⑤ 1946.8.2 徳田球一・志賀義雄連名の GHQ 憲法顧問コールグローブへの大山帰国尽力感謝状(資料4) =野坂の毛沢東・蒋介石往復書簡と共に由井格宅「水野津太資料」茶封筒内→文春 2004/6 加藤「戦後天皇制をめぐる毛沢東、野坂参三、蒋介石」参照、現慶大図書館所蔵。
- ⑥ MIS/CIC 「野坂参三ファイル」数千頁中の 1947.11 野坂の GHQ Saffel 宛て手紙 (資料5) =野坂は頻繁に GHQ と接触していた。
- ⑦ シベリア抑留帰還者への米軍 CIC 舞鶴尋問 Project Stitch による思想審査・「二重スパイ」工作＝ドイツ人捕虜に準じて、米軍は Project Stitch (縫い物作戦) という共産主義者とソ連スパイ容疑者 (PSA, Possible Soviet Agent) 数千人の摘発と、二重スパイ作りを進めた。憲兵隊・特務機関員・無線技士の他、収容所通訳などロシア語修得者は米軍にとって PSA であった。名越健郎によると、Project Stitch はソ連スパイ352人を割り出し、内138人が忠誠誓約を告白、32人が実際に帰国後接触。54 年発覚のラストボロフ事件日本人エージェント36人中外務省職員 4 人を含む半数は PSA として米軍がファイルに含めていた。
- ⑧ 米軍 G2/CIC の膨大な日本共産党監視・摘発記録、野坂・徳田・神山ファイル等 (資料6) =中央・地方のみならず大衆組織レベルも監視、

総じて多数のスパイ、日本共産党の過大評価。

- ⑨ シベリア抑留帰還者が米軍 CIC 尋問に答えた ソ連における忠誠誓約 (CIC/IRR 文書を用いた京大院進藤翔太郎修士論文から)
- 志位正二(陸軍少佐在奉天第3方面軍情報主任)の場合
 - ・1948 年 11 月 1 日舞鶴に帰還
 - ・1948 年 11 月下旬から 49 年 1 月 20 日まで NYK ビルで尋問を受ける
 - ・1948 年 4 月カラガンダ市第20収容所では通訳・労働監督を担当
 - ・1948 年 4 月 25 日対ソ協力誓約署名
私、西正二 (西正二はソ連によって与えられた志位のコードネーム) は、ソ連内務省の所属機関に対して協力いたします。この誓約に違反するような場合には、ソ連の刑法に基づいていかなる処罰を受けても差し支えありません。

1948 年 4 月 25 日
 - ・帰国後の行動に関するソ連側からの注意事項
 - 1) 日本共産党には加入しない。また、日本共産党といかなる接触を持つてはいけない
 - 2) 復員局の人間と交際してはいけない
 - 3) 連合国の人間と交際してはいけない
 - 4) ソ連大使館員とは接触してはならない
 - ・CIC に対する誓約署名
私は良心に従い、真実を話し、何も隠し事は致しません。私は自分の意志で以下のことを誓います。
 - 1) 帰国後私はソ連政府のいかなる代表者とも連絡を持っていません
 - 2) 現在私はソ連政府のいかなる機関とも関係を有していません
 - 3) 私は、ソ連政府のいかなる機関とも関係を持たないことを誓います
もし接触を受けた場合には、地元のアメリカ情報機関に速やかに報告を行います
 - 4) 1948 年 4 月 26 日、カラガンダ第99-20収容所に抑留されている間、ソ連政府に協力する誓約を行いました。しかし、帰国後の指令は一切与えられていません

○ 志位正二は、1949年2月からGHQ参謀第2部（G2）の地理課に勤め、抑留帰還者の尋問調書からソ連や中国の地誌を作成していた。1950年6月、GHQの取調べを受ける。1951年10月以降、G2在職のままソ連国家保安委員会（KGB）にエージェントとして雇われる。1953年11月、外務省アジア局調査員となるが、「二重スパイ」の活動は続いた。ユーリー・ラストヴォロフがアメリカ合衆国に亡命した後の1954年2月5日、警視庁公安部に自首し、自身がソ連の工作人員（スパイ）であったことを認めた。その後、海外石油開発株式会社常務となる。1973年3月31日、シベリア上空を飛行中の日本航空のダグラス DC-8 型機の機内で死去した。雑誌『世界』（2016年）連載の野田峯雄「ラストボロフ 謀略の残影」は、庄司宏裁判資料を除けば警視庁公安部総括と松本清張風陰謀説の焼き直し。

○ 齊藤卓郎（陸軍航空技術少尉）の場合

- 1) 他の抑留者にはなぜ自分がソ連内務省に呼ばれたのかを聞かれたら、車の修理をしていたと答えるように言い、尋問の内容は一切口外しないこと
- 2) 帰国後は抑留中見聞きした一切に関する質問に対しては、山で土を掘っていたので何も知らないように返答する
- 3) 共産主義関連の書物は一切読んではならない
- 4) 在日ソ連大使館には決して行ってはならない
- 5) 日本共産党への加入は行ってはならない

⑩ 米国の第3次世界大戦準備・レッドページ・朝鮮戦争の時期、GHQは日本共産党の力を過大評価し、CICとその指導下の国家警察を中心に、党内情報を全国で集めた。つまり、「革命を売る男」は、占領期共産党に無数に入っていた。伊藤律はモスクワから指摘された「解放軍」規定の誤りの背景にある「党内スパイ摘発」の任に当たり有能で、米軍からも中ソ共産党からもマークされた要注意人物、スパイ工作の対象外。

⑪ ソ連は JCP 工作と共に、権力中枢インテリジ

ュENSを重視＝志位正二らの対ソ忠誠誓約と米軍の二重スパイ工作（→1954ラストボロフ事件、1956日ソ国交時のプリンス近衛文隆不審死）

- 以上のほか、テッサ・モーリス・スズキ「民主主義の境界は隙だらけ」（『インテリジェンス』16号、2016/3）、進藤翔太郎 2016/3 京都大学修士論文参照。

【この章のまとめ】 総じて占領期には、日本共産党の中央・地方とも隙だらけで、CIC・日本警察のスパイ＝「革命を売る男」が多数入り込み、膨大な党内情報がGHQ・G2に流れていた。ただしそれらは玉石混濁で、荒唐無稽な暴力革命情報や幹部のスクランダル、噂・デマなども含まれていた。シベリア抑留帰りの日本人は、舞鶴など帰還地で真っ先に米軍に尋問され、共産主義者やソ連に忠誠を誓ってきたものは選別され長く監視された。米軍は、日本共産党全体をソ連の意を受けたホワイト・プロパガンダの担い手と見なした。当初のGS主導の非軍事化・民主化の段階では、労働組合奨励、軍国主義者追放の一手段として利用したが、1947年2・1スト以後は、G2/CICが主導権を握り、運動弾圧とソ連・中国・朝鮮の対敵諜報収集の対象とした。また、ソ連で忠誠誓約をした日本人帰還者の中から「二重スパイ」を選抜し、ソ連本国・在日ソ連代表部の内情・工作を探ろうとした。徳田球一・野坂参三ら幹部の米軍監視記録は数千頁に及び、日常生活の多くも筒抜けだった。

ソ連共産党と日本共産党との関係は、野坂参三を介して密接であり、東京の代表部を介しても共産党中央への影響力を行使し得たが、中国・朝鮮とは違って米国中心の連合占領下にあるという特殊な事情から、徳田・野坂の「占領下平和革命論」「人民民主主義」に直接指導は及ぼし得なかった。そのため日本共産党は、ソ連には米国占領の実態を訴えて情報を流し、他方で米国にはソ連のいいなりにはならないポーズを示す、ある種の「自主独立」の隙間を使い得た。1947年の西欧コミンフォルム結成・極東コミンフォルム構想に際しても、野坂はソ連の

意を受けて直ちに従おうとしたが、徳田や伊藤律は代表派遣見合わせの消極的態度をとった。これが1949年秋以降、中国革命勝利、ソ連原爆実験成功、朝鮮戦争切迫の時期の「コミンフォルム批判」につながり、ソ連から極東諸国共産党への指導を託された中国共産党への従属、党分裂と北京機関創設にいたる。

「占領下平和革命論の誤り」については、日本共産党として「自己批判」を示すスケープゴートが必要であった。それが当初は野坂であり、1953年ス

ターリンの死、ベリヤ銃殺、徳田球一客死後は、野坂による「抑圧の移譲」で、伊藤律が生け贄になった。伊藤律は、占領下「自主独立」期の活躍ゆえに米軍の攪乱・失脚工作の対象で「占領軍のスパイ」にはなりえず、6全協期のソ連・中国共産党への生け贄として日本共産党から「裏切り者」のレッテルを貼られ、「遡及論的」に戦前ゾルゲ事件についても「当時からスパイ」とされた。その主要な責任は、野坂参三にある。

3 ウイロビーの「川合貞吉は日本版チェンバース」の意味 伊藤律は、米国初期反共マッカーシズム及びスターリン・徳田没後の 日本共産党の対ソ中「自己批判」の象徴的「生け贄」

- ① 1945.6.6 アメラシア事件 FBI が国家機密漏洩で IPR (太平洋問題調査会) 系 6 人逮捕
- ② 1945.9 オタワのソ連大使館員 グセンコ のカナダ亡命
- ③ 1946.10 元共産党員 ルイス・ブデント が ゲアハルト・アイスラー (上海でゾルゲと一緒にドイツ人ジャーナリスト) を「米国におけるソ連のトップ・スパイ」と告発、47.2 逮捕、下院非米活動委員会 (HUAC) 宣誓拒否・エリス島収監、1949 英国経由東独へ
- ④ 1947.3 FBI フーバー長官、HUAC で「米国人の1814人に一人は共産党員＝第五列」
- ⑤ 1947.3.21 トルーマン大統領、政府職員の忠誠審査実施、CPUSA と約80団体関係
- ⑥ 1947.4.12 レーガン (後の大統領) 映画俳優組合内共産主義者を FBI に告発、10.23 ハリウッド関係者19人 HUAC 召喚、「ハリウッド・テン」映画界追放。ベルトルト・ブレヒト東独へ、映画界での「赤狩り」
＜1947/11 東方コミンフォルム構想と JCP 担当者伊藤律・徳田の慎重論＞
- ⑦ 1948.3 下院外交委中国援助公聴会、チェコ・クーデタ、ベルリン封鎖らを背景に中国内戦責任、戦時中国政策の見直し (49.8.7 国務省『中国白書』 10.1 中華人民共和国建国) から

- ジェサップ、サーヴィス、ラティモア、フェアバンク等を含む召喚・追放
- ⑧ 1948.7.30 上院行政府支出委エリザベス・ベントリー召喚、43名の共産党員名 (blonde spy queen)、翌日 HUAC で IMF 専務理事ハリ・ホワイト、タイム誌ウイテカー・チェンバース (34 年入党、38 年から FBI と接触) ら32人を共産党員と告発、8.3 HUAC チェンバースの召喚で国務省・カーネギー財団アルジャー・ヒスと一緒に共産党活動と証言、ヒスもホワイトも召喚・否定、ホワイトは召喚3日後死、ヒスはチェンバースを偽証罪逆告訴、以後、国務省・軍・学界等戦時 リベラル派・ニューディーラーの赤狩り。日本関係では、エレノア・ハドレー、ハーバード・ノーマン、ジョー小出等。
＜1949.2.10 国防省ウイロビー報告伊藤律発表、スメドレー抗議、川合貞吉尋問＞
- ⑨ 1949.4-10 HUAC で 原爆スパイ公聴会、オープンハイマー、クラウス・フックス、ローゼンバーグ夫妻、銭学森 (MIT/CIT でミサイル開発、後に「中国宇宙開発の父」)
＜1949.7.19 イールズ声明、50.6.6 共産党公職追放、日本の レッドパージ＞
- ⑩ 1949.8.6 G2 ウイロビーから GS ホイットニー

に送られた「ゾルゲスパイ団記録——アグネス・スメドレーの生き証人・川合貞吉尋問記録」での「川合は日本のチェンバース」というウィロビーのコメント（資料1）、国会図書館憲政資料室 GHQ/GS 文書中から、京大・進藤翔太郎氏発見）

- ⑪ G2 ウィロビーは、本国のケナン、ニクソン、FBI フーバー長官らにゾルゲ事件資料を提供し、スメドレーらの非米活動委員会告発で本国マッカーシズムに合流（資料7） = 1950.5.9（ゲティスバーグ大学ウィロビー文書）
- ⑫ 1950.2.10 マッカーシーの「205名共産党員リスト」 発言、以後赤狩り本格化
- ⑬ アジアではアグネス・スメドレー、エドガー・スノーら 在中米国人の非米活動告発 が主眼
- ⑭ 1953.3 スターリン没、6月ベルリン暴動、ベリヤ逮捕、10月徳田客死、JCP 伊藤律処分は、朝鮮「米帝スパイ」朴憲永・李康国肅清と併行（和田）、1932 全協尹基協射殺・高安重正らと同じく冤罪？ 党組織の疑心暗鬼による運動指導上の責任転嫁 = 33年スパイ査問致死の小畑達夫と同じ？
- ⑮ 注意：冷戦崩壊後のヴェノナ文書、ワシリーエフ文書、ミトローキン文書等公開後の米国の新正統派共産主義研究（ネオ・マッカーシズム、共産党員でなくても多数のソ連「内通者」判明）によるバックラッシュの可能性と、安倍晋三・日本会議による陰謀論風歴史認識の世界発信。
- **山極晃『米中関係の歴史的展開』（1997）、陸井三郎『ハリウッドとマッカーシズム』（1990）、黒川修司『赤狩り時代の米国大学』（1994）、クレア＝ヘインズ他『アメリカ共産党とコミンテルン』（2000）、同『ヴェノナ』（2010）参照。**

【この章のまとめ】 伊藤律の「占領軍のスパイ」説流布・定着にあたっては、戦前のゾルゲ事件関係者の一人であることと共に、米国でのマッカーシズム最盛期であったことが、大きく作用していた。1949年 G2 ウィロビー報告でのゾルゲ事件発表そのものが、米国本国における初期マッカーシズム「反共赤

狩り」の一環であり、日本での「レッドパージ」に直ちに連動した。ウィロビーは、国務省ジョージ・ケナン、FBI フーバー長官、上院ニクソン、マッカーシー議員らにもゾルゲ事件資料を送って本国の動きに合流したが、ただし主たるターゲットは、日本の官庁・学校・新聞社等の共産党員ではなく、中国革命を支援したアグネス・スメドレー、エドガー・スノーら在中国の親中派米国人であった。

スメドレーとゾルゲ・尾崎の会見の同席者と告白した川合貞吉が、ウィロビー報告直後に召喚されたのはそのため、川合は元ゾルゲ事件被告でありながら G2 に全面的に協力し、多くの「同志」の名を挙げた。そのため、ウィロビーにとって川合は、本国での「赤狩り」協力の元共産党員チェンバースと同じく、米国での「非米活動」摘発と日本共産党弾圧の双方に役立つ、格好の証言者・エージェント＝「革命を売る男」となった。

伊藤律がここで関わるのは、川合貞吉が G2 に日本共産党攪乱・分裂のために工作すべきターゲットとして名をあげたため、米軍としては、川合や尾崎秀樹の「生きているユダ」説の説得力を強め、「コミンフォルム批判」による党分裂・自滅の結果として共産党が伊藤律を除名するという企図せざる果実を得ることで、十分であった。この面でも、伊藤律は、占領軍に協力したわけではなく、G2 の川合貞吉工作の間接的犠牲者であった。

ただし、米国ヴェノナ文書、英国ミトローキン文書など旧ソ連の諜報活動資料が次々と公開され、ローゼンベルグ夫妻などマッカーシズム期に「ソ連のスパイ」と断罪された人々の一部が実際にソ連の工作を受けた情報提供者であったことが判明し、21世紀の米国では、ネオ・マッカーシズムともいえるべきイデオロギイ的バックラッシュが起こっている。日本でもこれを受けて、ゾルゲ諜報団が近衛内閣を動かして太平洋戦争が始まったと語る陰謀史観がかなりの影響力を持ち、日本会議が英語での海外発信を進めているため、伊藤律ばかりでなく、当時の日本共産党全体を「ソ連のスパイ」「第5列」とする反共宣伝は強まるであろう。

(資料1) 1949.8.6 G2 ウィロビーからGS ホイットニーに送られたゾルゲスパイ団記録=「アグネス・スメドレーの生き証人・川合貞吉尋問記録」送付メモ中の「川合は日本のチェンバース」というウィロビーのコメント(国会図書館GHQ/GS 文書中から、進藤翔太郎氏発見)

(資料2) 1945.2 米國務省ジョン・エマーソンらの国際自由日本人連合案(山極晃『米戦時情報局の延安報告と日本人民解放連盟』2005、より)

CRIMINAL AFFAIRS BUREAU; MINISTRY OF JUSTICE & PROCURATOR GENERAL'S RECORD AND DOCUMENTATION re-RICHARD SORGE

G-2 Comment Continued

2. One, Mr. Teikichi Kawai, now living tranquilly in Tokyo, was an important associate in the Sorge Ring and codefendant in the trials. A sort of Whittaker Chambers of Japan, Mr. Kawai has since turned against Communism and is now quite willing to "tell all." He has done so! His authenticated previous testimony in court dated 28 October, 7 November, 9 November and 10 November of 1941 is reaffirmed under oath on 18 February 1949. (Tab 1).

Reinterrogated by two American lawyers on 31 March and 1 April 1949, Mr. Kawai was under no pressure so far as this Headquarters was concerned; in fact, he appeared grateful to his American liberators; his collaboration was entirely voluntary. In 1949 he again freely implicates Smedley as an active accomplice and assistant of Sorge, convicted international spy, working for the Soviet Army and government.

- 同連合はそれぞれの連合団に現在存在する反戦日本人グループを包含すべきである。
- (a) 華北・華中の日本人民解放連盟はおそらく現在存在するもつとも活発で、もつとも経験を積んだ日本人組織である。それは共産主義者のグループであるが、その指導者、岡野はこう考えている。国際的組織は政治的色彩を持つべきではなく、非論争的な目標と目的を持って運動に参加することが望ましい。彼の見解は補遺にある。(補遺I)
 - (b) 中国の第二のグループはリベラルな作家鹿地亘によって設立された反戦同盟である。しばらく不活動の時期があったが、今は復活の時期にあり、急速に規模、影響力、活動を増大させるものと期待されている。岡野と鹿地の間には意見の交換があった。そして原則において完全な一致がある。鹿地の考えとその綱領は補遺にある。(補遺II、III)
 - (c) アメリカには日米民主委員会と全米日系市民協会がある。これらの組織の会員は主に二世であるが、彼らも国際的連合に参加させるべきである。在米の日本人への彼らの影響力をこの組織に参加することによって重要な程度利用することができる。日米民主委員会はすでに延安の日本人グループと接触がある。
 - (d) 国際的連合が作られたら、参加グループはどこでも捕虜のなかに広げられるべきである。英、カナダ、オーストラリア政府もこの活動に誘われる。オーストラリア政府はその重慶公使館を通じてこの計画に関心を示している。捕虜の教化に関連して、英情報省は連合参謀本部での討議のためにある計画を提出している。
 - (e) もちろん、この組織は米政府によって公式に保証されるとか、公的もしくは政治的性格を持つことは提案されていない。しかしながら、在米の日本人グループの著名な代表と非公式の接触がなされ、彼らがこのような組織を作るイニシアチブをとるよう奨励されるよう提案する。
 - (f) その組織の可能な指導者として挙げられる一人は大山郁夫で、いまシカゴに隠遁して生活している。彼は日本および海外の日本人のなかでよく知られた人物であり、共産主義者ではない。彼が積極的な役割を引き受けるか、否かにかかわらず、彼の名前は組織に声望をあたえるであろう。
 - (g) 組織はすべての日本人を包含するような幅広いものにすべきである。その原則は非論争的で、全グループに受け入れられるもの、日本の早期敗北、軍部の破壊、民主的な戦後日本の奨励であるべき。
 - (h) 連合が成功するには、個人的衝突やライバルや派閥の争いに堕すことに最大の注意を払う必要がある。そのため、中国では団結を保持するために特別の注意が払われ、鹿地と岡野の間には完全な原則の一致が作られた。同じことは後から組織に参加する他のグループともなされねばならない。

(資料3) 1945.7.12 鹿地亘
の米国政府 Government of
USA への忠誠誓約・エージェ
ント契約書 (米国国立公文書
館、OSS 文書)

AT THE NATIONAL ARCHIVES

DECLASSIFIED
Authority KMO 00 7001
By NARA Date 8-27-08

Ent. 224. OSS
R9 226. Personal Files

SECRET
EXHIBIT "A"
STANDARD FORM OF OVERSEAS
"AGENT" EMPLOYMENT CONTRACT.

MEMORANDUM OF AGREEMENT made this 12th day of July, 1945,
effective as of the 1st day of July, 1945, between the
Government of the UNITED STATES OF AMERICA (hereinafter called "the Government"),
represented by the undersigned Contracting Officer, and Mr. KAJI WATURI
of
(hereinafter called "the Employee").

WITNESSETH:

- The Employee shall faithfully perform all duties which may be assigned to him by the Contracting Officer or his authorized representatives.
- The term of employment shall be from the effective date hereof until 60 days after the termination of hostilities between the United States and JAPAN, as proclaimed by the President of the United States, unless sooner terminated as hereinafter provided.
- The Government further agrees:
 - To compensate the Employee at a salary of US \$200.00 per month;
 - To furnish facilities for, or pay the cost of, all travel by the Employee necessary to the performance of his duties hereunder;
 - In the event of the death of the Employee as a result of accident or illness caused by the performance of his duties hereunder, the Government will pay to _____ of _____, the sum of US \$1200.00, which the Employee agrees, on behalf of himself, and all claiming through or under him, will be in complete satisfaction of all claims against the Government which may arise out of this employment, including the United States Employees' Compensation Act (5 U.S.C., Ch. 15, as amended) and the War Pay and Allowances Act of 1942, as amended (50 U.S.C., App. 1001-1016), and all other statutes now or hereafter enacted.
- The Employee further agrees:
 - To subscribe freely and without reservation to any Oath of Office prescribed by the Government.

* Residence
** Relationship

(296) SECRET CONFIDENTIAL

(資料4) 1946.8.2 徳田球一
・志賀義雄連名の GHQ 憲法
顧問コールグローブへの大山
郁夫帰国への尽力感謝状 (由
井格所蔵「水野津太資料」茶
封筒内、現慶応大学図書館)

2-10-10 徳田球一の手紙 (1946.8.2. 徳田 志賀 義雄 連名)
(大山郁夫の手紙伝達の感謝)

Tokyo
August 2, 1946.

Dear Prof. Colegrove,

We can hardly express our gratitude for the kindness you have shown us in bringing Mr. Oyama's letter to us. We are very glad to tell you in this letter that the favor duly reached us.

But, we feel very regretful that you did not stay here long enough, and that for that time only we could not see you to extend our hearty thanks personally. We are afraid that this belated missile of ours, which Dr. Wildes of the Government Section, GHQ, would kindly offer a chance to send to you, is insufficient to express our profound gratitude.

Hoping to see you in the near future, we are

Yours Truly

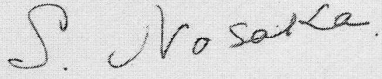
Kyuichi Tokuda
Yoshio Shiga

(資料5) 米国国立公文書館 MIS/CIC「野坂参三ファイル」中の 1947.11 野坂のGHQ Saffel 宛手紙

Nov. 10, 1947.

Dear Mr. Saffel.

I beg to inform an accident to you which took place in Suwayama, Hokkaido. In view of the fact that similar accidents have taken place more than once and that the Japanese police has been ineffective in remedying the situation, I would like to have you pay special attention to this and investigate the matter.

Yours sincerely

 Sanzo Nosaka.

(資料6) 米国国立公文書館所蔵 CIC/IRR 文書中の日本共産党・ゾルゲ事件関係ファイル

Records of the Army Staff (Record Group 319) Counter Intelligence Corps (CIC) Collection

Records of the Investigative Records Repository (IRR) Case Files: Impersonal Files

1940-1976 (問題別ファイル、各ボックス数千頁、膨大な日本共産党関係文書、中央委員会関係は豊富、北海道・宮城県委員会なども充実、地方・地区によりばらつき、噂やガセネタ多数、総じて共産党の過大評価)

Box 101

Declassified File No.	File Name
NND 941033 ZF010439	Operation POLECAT (4 vols), 1946-1947
NND 941033 ZF016104	ORGAN 101 [Japanese repatriated from Russia], 1948

Box 110

Declassified File No.	File Name
ZF016114	Communist Party of U.S. Installation--Japan (2 Vols)
ZF016108	Japan Communist Party Map of Military Bases and Key Factories--Japan

Box 110-111

Declassified File No.	File Name
ZF016102	Espionage Directives [Far East Command] Vols. 1-2, 1947

Box 111-112

Declassified File No.	File Name
ZF016107	Japanese Communist Party (JCP) Structure and Organization Vols. 1-4

Box 112

Declassified File No.	File Name
F016109	Japanese Communist Party (JCP) Espionage Net
F016116	North Korean People's Army (2 Vols)

ZF016110	Pre-Pearl Harbor Espionage
ZF016113	Reactions to Australian War Crimes Trials

Box 113

Declassified File No.	File Name
ZF010749	East Germany Intelligence Services, 1947
ZF016125	Atrocities Korea, 1950-1951
ZF016147	Czechoslovakia Activity
ZF016149	Espionage Activities of Japanese Communist Party (JCP)
ZF016132	Gestapo Organization in China and Manchuria, 1945
ZF016128	Intelligence on Russian Activity
ZF016137	Japanese Agents of Soviet Intelligence
ZF016148	Japanese Intelligence Missions [Philippines]

Box 116-118

Declassified File No.	File Name
ZF016146	North Korean Espionage Ring Vols. 1-14

Box 125

Declassified File No.	File Name
ZF016150	Japanese Communist Party (JCP) Directives & Activities Books [Microfilm Rolls 502-507]

Box 126

Declassified File No.	File Name
ZF016150	Japanese Communist Party (JCP) Activities Books [Microfilm Roll 508]

Records of the Army Staff (Record Group 319)、IRR Personal Name Files, 1939-1976 (個人別ファイル、日本人約2000人分中の一部の共産党・ゾルゲ事件関係摘出、ばらつきはあるが、各ファイル百頁前後、豊田令助などキーパーソンは表紙のみで今日でも機密資料、共産党幹部でも伊藤律・宮本顕治・袴田里見などはなし)

ABE Yoshiko G8165293 529 阿部淑子 (共・岩田義道妻)

ABE Yoshimi XA500077 001 阿部義美 (共、白鳥事件) JCP東京都委員会

AKIYAMA Frank Koji AC856671 秋山幸治 (ゾルゲ事件、米共) 2冊

ANDO Jiro XA500409 015 安藤次郎 満鉄、ゾルゲ・尾崎・中西、横浜事件

ASAEDA Shigeharu X9021028 023 朝枝繁春 (参謀本部対ソ諜報、抑留、ラストヴォロフ事件)

ASAHARA Masaki XA500927 023 浅原正基 (シベリア天皇、日本新聞編集長)

DOKI Tsuyoshi XA502667 461 土岐強 (共)

HASEGAWA Hiroshi AC857239 615 長谷川浩 (共)

HORIE Muraichi XA5045560 309 堀江邑一 (共) ソルゲ関係なし、河上肇、日ソ協会、都教育委員

ICHIKAWA Shoichi XA507426 323 市川正一 (共)

ISHIJIMA Sakae XA503917 330 石島栄 ゾルゲ事件 (DNB日本人記者)

ITAGAKI Tadashi XA537170 331 板垣正 征士郎大將息子 共産党入党/脱党

ITO Kenichi XA508283 332 伊藤憲一 (共、ソ連渡航、留萌生協)

KAMEYAMA Kozo XA507862 373 亀山幸三 (共)

KAMIYAMA Shigeo XA507955 373 神山茂夫 (共) 2冊
KAROKU HOSOKAWA 細川嘉六 BOX378 B 級共産党員、
 参院議員、ゾルゲ事件なし、横浜事件少々
KASE Hirotoshi XA537284 379 加瀬敬年 JCPソ連帰還
 者生活擁護同盟
KASUGA Shoichi XA509940 BOX 380 春日正一 (共)
 2冊膨大
KASUGA Shojiro XA509941 380 春日庄次郎 (共)
KAWAI Teikichi AC843978 386 川合貞吉 (ゾルゲ事件)
KAWAI Toru AC857917 386 河合徹 岡山県JCP一高東
 北大、
KAWAKAMI Kanichi XA509318 386 川上貫一 (共、国会
 議員) 議員活動 3冊
KIMOTO Jack D. X8461527 box399ジャック木元(木元
 伝一、ゾルゲ事件)
KITAMURA Masaru XA537611 404 北村勝シベリア帰り
 のJCP長野県 雑誌『ソビエト』
KOMATSU Shigeo XA513037 422 小松七郎、千葉県JCP
 委員長、満州興農合作社、1959まで
KONDO Toshiharu 近藤俊晴 共産党九州・山口組織者、
 突撃隊。ソ連エージェント
KONISHI Masao 小西正雄 全協治安維持法被告、戦後J
 CP香川、中央委員
KUNISAWA Kumaji AC857847 443 国沢熊治 JCP 高知県
 委員会活動家
KURAHARA Korendo XA511193 445 蔵原惟人 (共)
MASUDA Yoshio XA537825 141 (共、兵庫)
MATSUMOTO Fujiso XA545070 463 松本三益 (共、ゾル
 ゲ事件)
MITSUHASHI Masao XA537899 553 三橋正夫 (鹿地事件、
 二重スパイ)
MIYANISHI Yoshio XA515553 155 宮西義雄 (ゾルゲ
 事件)
NAKAGAWA Seimatsu XA518263 367 中川清松 (共、茨
 城県委員、転向手記)
NAKAGAWA Tadayoshi AC857907 616 中川忠義 (共、徳
 島)
NAKAJIMA Hiroshi XA536536 159 (共、無線技師)
NAKAJIMA Taketoshi XA515669 462 中島武敏 (共、ポ
 ポロ事件、国会議員)

NAKANISHI Inosuki XA515981 159 中西伊之助 (共)
NAKANISHI Ko XA515984 464 中西功 (共)
NAKANO Shigeharu XA519255 460 中野重治 (共)
NISHIKAWA Hikoyoshi XA517552 459 西川彦義 (共)
NOZAKA Sanzo XA519422 163C 野坂参三 (共) 4冊
OKADA Bunkichi XA520169 462 岡田文吉 (共)
OKAMOTO Hiroyuki XA537400 734 岡本博之 (共、シベ
 リア) 未公開
OKAMOTO Masamitsu AC857849 616 岡本正光 (共、高
 知県指導者)
OSAWA Kyumei XA518949 734 大沢久明 (共)
OTAKE Hirokichi XA519179 170 大竹博吉 (ソ連、ナ
 ウカ)
OZAKI Hidemi XA516564 461 尾崎秀実 (ゾルゲ)
SADA Ineko XE522618 189 佐多稲子 (学)
SHIGA Yoshio XA522934 456 志賀義雄 (共)
SHINO Etsuro XA522990 380 椎野悦郎 (共)
SHIRAIISHI Sanzo XA524529 212 白石三蔵 (共、埼玉
 県委員)
SHIRAKAWA Seiichi XA524542 213 白川清一 (共)
SHIRATORY Kazuo XA524578 313 白鳥一夫 (白鳥事件)
SUGIMOTO Fumio XA526662 杉本文雄 (共)
SUNAMA Kaz Ichizo XA523618 315 鈴木市蔵 (共)
TAGUCHI Ugenta XA528099 624 田口右源太 (共、ゾル
 ゲ事件被告)
TAJIMA Hide XA526043 222 田島ひで (共)
TAKAKURA Teru XA528896 503 高倉テル (共)
TAKAYAMA Gizo XA527243 224 高山義三 (京都市長、
 秘密共産党か)
TOKUDA Kyuichi XA528538 318 徳田球一 (共) 4冊
TOKUSABURO Dan 淡徳三郎 (共)
TOSAKA Ryoichi AC857277 742 遠坂良一 (共)
TOYOTA Reisuke X6165705 233 豊田令助 (矢野務、ゾ
 ルゲ事件、米共)
UCHINO Soji XA527378 463 内野壮児 (共)
UCHIYAMA Kanzo XA529395 530 内山完造 (中)
UDAGAWA Keizo XA529420 235 宇田川恵三 (共)
WATANABE Yoshimichi XA532327 244 渡部義通 (共)
WATARU Kaji AC857252 554 鹿地亘 (共)
YAMANA Masami XA530675 252 山名正美 (共、ゾルゲ)

YAMAGUCHI Yoshiko X8990223 556 山口淑子 (李香蘭)

ンクフルター・ツアイトウング記者)

YOSHIDA Mineo AC857313 62 吉田峰夫 (共)

Ott Eugen オイゲン・オット (駐日ドイツ大使、ゾル
ゲの親友)

HO Chi Minh XA504319 087A ホーチミン

MAO Tsetung XA513557 135 毛沢東

Meisinger Josef ヨゼフ・マイジンガー (ナチス党親
衛隊日本代表)

KIN To Yo XA511737 112 金斗鎔

CLAUSEN Max XA502453 031 クラウゼン (ゾルゲ)

ABEGG, Lilly リリー・アベック (ゾルゲ事件時フラ

(資料7) 1950.5.9 G2 ウィロビーの本国国務省ジョージ・ケナンへのゾルゲ事件資料送付に対
するケナンのウィロビー宛て返事 (ゲティスバーグ大学ウィロビー文書)



DEPARTMENT OF STATE
The Counselor
Washington

May 9, 1950

Dear General Willoughby:

Thank you for your letter of April 22.

I appreciate very much your desire to be of assistance in clearing up the charges which have been advanced against the Department of State in connection with Far Eastern matters. While these charges have been so vague and unspecific that it has been hard to know where to begin in answering them, we are anxious, as I know you are, that all the facts should be developed which could possibly lead to the clarification of the subject. It would seem to me that the Sorge case might indeed be pertinent, especially if my impression is correct that Sorge utilized every American in China whom he thought to be amenable, and would probably have known of, and made use of, any disloyal persons in our official establishment.

I take it that you are in touch with the House Un-American Affairs Committee and that your material is already available through them to the appropriate Congressional bodies.

Thank you for your courtesy and valued assistance to Wisner. I am delighted that he was able to see you and get the benefit of your advice.

With warmest regards,

Sincerely yours,

George F. Kennan
George F. Kennan

Major General C. A. Willoughby, GSC,
Assistant Chief of Staff, G-2,
General Headquarters,
Far East Command,
APO 500, c/o Post Master,
San Francisco, California.

